

西岸地区、覆面入植者がオリーブ収穫中農民襲撃、欧州の訪問団をも襲撃

パレスチナ・クロニクル編集部、2026年10月17日、協浜義明訳



2026年10月17日、占領下のヨルダン川西岸地区のタイベで、イスラエル人入植者による襲撃が発生した後、外交用車両の横に横たわるフランスのベルナール・ブード市長。(Photo: Video grab)

主要出来事

- ・西岸地区タイベで覆面姿の入植者が欧州外交団とオリーブ収穫中のパレスチナ農民を襲撃した。
- ・ベルギーがこの攻撃を非難し、フランスの市長が攻撃されたことを報告、ベルギーとしてEUに制裁をすることを引き続き求めると誓った。
- ・パレスチナ人監視団体は、過去12時間でイスラエル占領軍と入植者の攻撃を40件記録した。

10月17日、占領地西岸地区各地でイスラエル軍と入植による農民とその農地、収穫物に対す襲撃と略奪が広がる中、タイベで、覆面をしたイスラエルの入植者らがオリーブ収穫中のパレスチナ人農民や、現地訪問中の欧州外交団を襲撃した。この外交団は、フランス、ベルギー、ポーランドの代表者や、カトリック教会の代表者やフランスの自治体代表者で構成されていた。

タイベのスレイマン・クーリエ市長がアナドル通信の取材で語ったところによると、入植者の攻撃は、タイベとフランスのサン・ピエールの姉妹都市協定を記念する式典の後に起きた。式典には、フランス領事、ベルギー領事、ポーランドの代表者、サン・ピエールのクリスチャン・ラヴァン市長がいた。クーリエ市長は、式典が済んだ後、入植者らが外交団とオリーブを収穫していたパレスチナ人を襲い、住民を負傷させ、ベルギーの外交車両の窓を割ったと言った。

イスラエル軍ラジオ放送も、入植者らが外交団車両に投石したという目撃者の証言と映像を報じた。同ラジオ放送は、攻撃された車両の横で地面に倒れている外交団の一人を、フランス北部の都市オルノワ・ヴァランエンスのベルナール・ブード市長であると特定した。

ベルギーのマキシム・プレヴォ外相は、フランスの市長が襲撃され、ベルギーの車両が損傷したことを確認した。外相は、「ヨルダン川西岸の占領地タイベで、覆面をした入植者らがパレスチナ人、我々の総領事、フランスやポーランドの外交官、カトリック教会の代表者らを襲撃したことを、最も強い言葉で非難する。フランスの市長が攻撃され、ベルギーの車両が損傷したが、我々のチームは無事である」と言った。

クーリエ市長は、この襲撃を、「外交活動と人道支援活動の神聖さに対する明白な侵害」であり、パレスチナ農民に対して継続的に行われている活動妨害の一環であると述べた。

ベルギー、入植者の犯罪の不処罰を終わらせよと要求

ベルギーのプレヴォ外相は、パレスチナ人が日々こういう暴力に直面している中、ジャーナリストや外交官も攻撃の標的にされていると強調した。「オリーブ収穫、報道活動、外交任務を遂行といった行為が攻撃の危険にさらされるようなことはあってはならない」と。彼はXに投稿した。外相は占領国イスラエルに、パレスチナ人を保護し、ジャーナリストや外交官の安全を保証し、犯行者に法の裁きを受けさせるように要求した。「暴力を振るう入植者の免責を終わらせるべきだ」と言った。また、外相は、ベルギーとしては、加害者とそれを支援する者に対してEUが制裁することを、今後も強く求めていくと付言した。彼は、こういう暴力をイスラエルの入植政策に結びつけ、入植地の拡大や、パレスチナ人を強制的に立ち退かせるやり方にベルギーが反対していることを、改めて強調した。「パレスチナ領の占領を終わらせなければならない」と言った。

12時間で40件の攻撃

タイベ事件は、オリーブ収穫期を標的にした一連の攻撃に波の一つである。クッズ・ニュース・ネットワークによると、パレスチナ入植地・分離壁抵抗委員会は、17日の午前6時から午後6時までの間に、イスラエル軍と入植者による攻撃が40件あったことを記録した。ナブルス、ラマッラー、アル・ビレ、サルフィット、ジェニン、エルサレム、ベツレヘム、ヘブロン各地で攻撃があった。実弾射撃、殴打、逮捕、農地からの追い出し、オリーブや農機具の強奪、樹木破壊などが行われた。

抵抗委員会は、ナブルス南部のアクラバとヘブロン南部のマサフェル・ヤッタのマインで、実弾発射による負傷者が出たと報告した。また、マインでは催涙ガス弾のガスをパレスチナ人が吸い込んだ。

デイル・ディブワンでは農民2人が殴打され、シブティーンでは若者2人が負傷した。また、ベイト・フリスクでは農民が追いかけられ、殴打され、負傷、打撲、失神などの被害が記録された。

イスラエル占領軍はオリーブ収穫中の5人を拘束した。3人はシブティーンで、1人はジャバ近郊で、1人はバティールで拘束された。

デイル・ジャリールでは、入植者がオリーブ収穫者を襲撃、発砲して農民を農地から追い出した。抵抗委員会によると、イスラエル軍はアブ・ファラーで催涙ガス弾を発射し、デイル・アンマルで農民に向けて発砲した。

カフル・マリクのアイン・サミア近郊では、パレスチナ人の畑をブルドーザーで整地し、オリーブの木が根こそぎにした。ブルカ、ランティス、シルワドでも農民が立ち入り禁止された。

ナブルス全域では、ブリン、アッルバン・アッシャルキア、ヤトマ、ベイト・イムリン、ベイト・ダジャン、ドウマで農民が農地から追放され、オリーブと農機具が盗まれた。入植者はベイト・フリク平原で数十本のオリーブの木を伐採した。

ジャマイン、マルダ、ヤスフの間の地域で、入植者らが農民を襲撃し、農業用トラクター2台とオリーブ収穫機を盗んだ。抵抗委員会は、避難する農民に対して催涙ガスと銃撃が浴びせられたと報告した。

委員会は、これらの攻撃はオリーブの木、オリーブ収穫機、オリーブ畑への道路など、収穫プロセスの全過程を標的にし、パレスチナ人世帯にとって重要な収入源を脅かしていると警告した。

委員会は、農民の保護、農民の土地への安全で継続的アクセスの確保、そして入植者と彼らを保護するイスラエル軍部隊に対する責任追及を求めた。